

科目名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	今井 福司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- （１）本科目は司書教諭免許を取得するための必修科目５科目のうちの１科目である。
- （２）学校図書館法によれば、学校図書館は学校教育を支える基盤とされている。本科目では司書教諭を目指す受講者のために、学校教育や学校図書館に関わる基本的な知識やその背景について、講義や実践例を教員が提示しながら学ばせる。その上で知識や背景を前提としながら、学校図書館の経営について受講者各自がアイデアを提示できる場面も設けたい。
- （３）本科目の目標としては以下の項目を提示する。
- ・単に知識を丸暗記するのではなく「構造」「固有名詞」「数字」に着目して学ぶこと。
  - ・覚えた知識を“第三者に説明すること”を意識して学ぶこと（その知識には何が前提とされていて何を話さなくてはいけないのか）。
  - ・学んだ知識を使って、どんな実践が可能なのかを意識して授業に臨むこと。
- 1点目および2点目の目標を達成するために、授業では頻繁に発言を促すので予め留意しておいてほしい（様々なレベルの質問をするので、正解不正解を気にせずに発言すること）。3点目の目標を達成するために、本科目では講義だけではなく実習を取り入れる。特に後半では任意のテーマを設定してグループ作業を行ってもらおう。
- なお授業進行の都合上初回到座席を指定するので、特に初回の遅刻・欠席はしないこと。加えて集中講義であるので、遅刻・欠席・早退は特段の理由がない限り行わないこと。

#### 内容

授業は基本として以下の構成で進行するが、受講者の反応や希望、展開状況に応じて変更することがある。

（第一ブロック：学校図書館を取り巻く制度）

1. イントロダクション、学校図書館の現状の確認
2. アメリカ・日本における学校図書館の歴史とその理念・意義
3. 学校図書館関係法規と位置づけ
4. 学習指導要領と学校図書館

（第二ブロック：学校教育の中での学校図書館の機能）

5. 学校図書館の整備Ⅰ メディアの選択と組織化
6. 学校図書館の活動Ⅰ 読書センターとしての活動
7. 学校図書館の活動Ⅱ 学習・情報センターとしての活動
8. 学校図書館職員の位置づけ、司書教諭の任務と役割
9. 学校図書館の経営（学校経営計画の立案、学校教育計画での位置づけ）

（第三ブロック：学校図書館実践の提案と評価）

10. 学校図書館の整備Ⅱ 環境整備(施設・設備)
11. 学校図書館の評価と改善
12. グループ作業（作業内容については、授業中発表する。）
13. グループ作業発表会

（第四ブロック：学校図書館の展望）

14. 情報化社会，生涯学習時代における学校図書館の位置づけ

15. まとめ

## 評価

授業参加の度合いおよび小課題の提出状況を5割の配点，そして最終試験の結果を5割の配点として，これらの点数を足し合わせて評価を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

・古賀節子編 『学校経営と学校図書館』 司書教諭テキストシリーズ 第1巻 樹村房 2002

### 【推薦書】

・桑田てるみ編著 『思考力の鍛え方』 静岡学術出版 2010

・坂田仰，河内祥子，黒川雅子編著 『学校図書館の光と影』 八千代出版 2007

科目名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。

司書教諭は、今日の学習環境の変化に伴い、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」、「インターネット等の電子資料」や「電子書籍」などの種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要がある。

司書教諭としての実務能力を持てるように、講義だけでなく演習も加えながら、学習していく。また、実際に学校図書館でどのような運用が行われているかも具体例を含めて説明していく。「学校図書館メディアの構成」は、学校図書館司書教諭5科目の一つである。

#### 内容

- 1 授業の進め方と目標(ガイダンス)
- 2 学校図書館を取り巻く環境と現状
- 3 学校図書館の運用(事例)
- 4 学校図書館での取り組み(他機関との相互協力と地域連携)
- 5 学校図書館の役割
- 6 学校図書館メディアの役割・種類と特徴
- 7 学校図書館メディアの選択のための情報源
- 8 学校図書館メディアの収集方針
- 9 学校図書館メディアの廃棄
- 10 学校図書館メディアの組織化
- 11 学校図書館メディアの配列(分類)と配架、サイン計画
- 12 学校図書館メディアの組織化(目録と分類演習)
- 13 学校図書館メディアにおけるコンピュータの活用
- 14 学校図書館メディアにおける著作権法
- 15 まとめ

#### 評価

評価の前提として2 / 3以上の出席をすること(やむを得ない欠席の場合は必ず相談すること)。成績の評価は、通常の授業態度および授業中に提出する課題や小テスト(35点)、レポートおよび演習に対する課題による評価(35点)、試験(30点)の結果で総合的に評価する。総合60点以上で合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

【参考図書】志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化 改訂版』 青弓社 2009 ほか、授業でその都度挙げて説明していく。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格と概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭5科目のうち最も中核的な科目である。

#### 学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

#### 内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索（図書館での演習）
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定（発表・討議）
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化（グループ討議）
9	指導内容の体系化（討議結果の発表）
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の1単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

#### 評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

学校図書館司書教諭資格を取得したい学生に向けての必修科目である。

学校図書館においては、近年、活字離れ、読書離れが進んでいる児童・生徒の「読書」を支援することが強く求められている。読書は、言葉を学び、感情を磨き、表現力を高め、人生を深く豊かに生きていく上で、欠くことのできないものである。具体的に、どのように子どもたちの読書を支援していくかについて講義をしていく。

## 内容

- 第1回 子どもの読書についての考え方
- 第2回 読書と人間形成
- 第3回 小学校低学年の子どもの読書
- 第4回 小学校中学年の子どもの読書
- 第5回 小学校高学年の子どもの読書
- 第6回 中学生と読書
- 第7回 高校生と読書
- 第8回 読書資料の種類と活用
- 第9回 絵本
- 第10回 伝承文学（昔話、伝説など）
- 第11回 ファンタジー
- 第12回 リアリズム、ノンフィクション
- 第13回 読書体験のひろがり
- 第14回 学校図書館での読書環境の整備
- 第15回 家庭、公共図書館、地域関連機関との連携・協力

## 評価

授業のなかでの討議や実演など30パーセント、レポート内容など70パーセントで評価する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

赤星隆子編著『読書と豊かな人間性』樹村房

科目名	情報メディアの活用		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

本科目は、司書教諭資格を得るために必要な科目である。

##### 科目の概要

学校図書館の情報化の流れを概観し、メディア専門職としての司書教諭のあり方を理解する。次に、情報メディアの特性や活用方法を、実習も交えて体得する。また、情報活用能力を育成するために必要となるインターネットによる情報活用方法について学習する。同時に、著作権法や学校図書館に関わるモラル指導のあり方について解説する。

##### 学修目標

これからの学校図書館は、生徒の学習を支援する学習センターの機能と、生徒の情報リテラシーの育成を支援する機能が一層重要となる。そのために、従来の各種メディアや情報ソフトの整備の他に、マルチメディアに対応した情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に対する対応が求められている。このような学校図書館を経営し、生徒や教職員の情報活用能力を育成できる司書教諭になるために学習することをねらいとする。

#### 内容

1	学校図書館の情報化の施策の流れ
2	メディア専門職としての司書教諭
3	高度情報通信社会と学校図書館
4	情報メディアの発達
5	情報メディアの特性と選択
6	視聴覚メディアの活用
7	教育用コンテンツの活用
8	データベースと情報検索
9	インターネットによる情報活用
10	インターネットによる情報発信
11	学校における情報共有
12	インターネット利用の光と影
13	著作権とメディア
14	演習・実習
15	まとめ

#### 評価

授業内に課する演習(4課題を40%評価)と実習(4課題を50%評価)を評価し、授業への参加度(10%)を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】井口磯夫編著 『情報メディアの活用』 樹村房

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・ALA、足立正治・中村百合子監訳

『インフォメーション・パワーが教育を変える』 高陵社

堀田龍也著 『メディアとのつきあい方学習』 ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編 『情報倫理学』 ナカニシヤ出版

田屋裕之著 『電子メディアと図書館』 勁草書房

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

子どもたちの心身の健康問題等のとらえ方や解決策について、これまで学んだ科目「学校保健」、「養護概説」、「健康相談活動の理論及び方法」を基礎にしながら、日常等の実務に必要な具体的な方法について、主に演習により学ぶものである。

特に、学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法及び技術的基準、事後処理等に関する事項の具体的な方法等について演習を通じた体験学習で、養護教諭としての資質を担保するものである。

学修目標は、学校保健安全法及び通達等による方法等の遵守、各種関係計画等の立案に係る諸事項の理解 養護実習時の活用の仕方

#### 内容

- (1)学校保健計画の根拠とその留意点について
- (2)学校保健計画及び評価計画の実際
- (3)定期健康診断実施計画立案時の留意点とその実際
- (4)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(1)（身長・座高・体重測定方法、視力・聴力・色覚検査方法）
- (5)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(2)（内科・眼科・耳鼻咽喉検診、尿検査、心臓検診）
- (6)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(3)（問診票及び各種検診事前調査について）
- (7)定期健康診断事後処理の実際
- (8)健康観察の留意点とその実際
- (9)保健室経営計画立案時の留意点について
- (10)保健室経営計画立案の実際
- (11)学校環境衛生検査の実際と学校薬剤師との連携について
- (12)学校医、学校歯科医、検査機関との連携について
- (13)「保健だより」作成の留意点について
- (14)「保健だより」作成の実際
- (15)まとめ

#### 評価

各回による課題のレポート及び資料作成 8 割、通常の授業態度 2 割 60 点以上合格とする。  
合格点に満たなかった場合は「再試験」を実施する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】采女智津江他「新養護概説」少年写真新聞社、

学校保健・安全実務研究会「学校保健実務必携第2次改訂版」第一法規株式会社

科目名	食機能論		
担当教員名	井手 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：食品の持つ重要な特性として、生体の代謝、免疫系、内分泌系等を制御することにより健康の維持・増進と疾病の予防・治療に資する三次機能（生体調節機能）がある。本講義ではこの食品の三次機能に関して述べる。最新の知見を紹介するもので、理解には食品学・食品化学の講義で習得した食品の特性に関する知識とともに、栄養学、栄養化学、人間生物化学、分子栄養学等の科目で習得した基本的知識が幅広く要求される。

科目の概要：食品の持つ抗酸化機能、消化吸收促進機能、代謝改善機能、吸収阻害機能、微生物活性化機能、脂質代謝改善機能等について基本的メカニズム、食品成分の作用点、機能を活用した食品の実例などについて解説する。

学習目標：

- 1.健康維持・疾病予防と関連する生体の代謝機構等について基本的なことから学び理解する
- 2.食品中の機能成分がどのようなメカニズムで生体調節機能を発揮するかを学び理解する
- 3.三次機能を活用した食品について学ぶ
- 4.健康の維持・疾病の予防に有効な食生活について学び理解する

#### 内容

1	食品の機能とは
2	機能性食品の現状（栄養機能食品、特定保健用食品）
3	抗酸化機能（活性酸素の生成と生体への影響）
4	抗酸化機能（抗酸化物質）
5	抗酸化機能（抗酸化機能食品）
6	消化吸收促進と代謝改善機能（消化吸收のメカニズム）
7	消化吸收促進と代謝改善機能（ミネラル吸収のメカニズムと吸収促進物質）
8	消化吸收促進と代謝改善機能（ビタミン吸収のメカニズム）
9	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（食物繊維）
10	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（糖アルコール、オリゴ糖）
11	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能（プレバイオティクスとプロバイオティクス）
12	脂質代謝改善機能（脂質代謝とその制御メカニズム）
13	脂質代謝改善機能（多価不飽和脂肪酸、大豆タンパク質、リン脂質）
14	脂質代謝改善機能（ジアシルグリセロール、共役リノール酸、フラボノイド、リグナン）
15	まとめ

#### 評価

期末テストにより評価し、60点以上を合格とする。成績不良者に対しては別にレポート提出を求めることがある。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳康夫編著、有田政信、太田英明、大野信子、藺田勝、辻英明共著 『改訂食品機能学』建帛社

【推薦書】寺尾純二、山西倫太郎、高村任知共著 『食品機能学』光生館

科目名	食薬理学		
担当教員名	小島 彩子、梅垣 敬三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

### 科目の性格

本科目は、養護教員一種免許取得のための教育課程における「養護に関する科目」のうち「微生物学、免疫学、薬理概論」区分に該当する選択科目である。

### 科目の概要

食品成分も医薬品と同様に一つの化学物質としてとらえ、それら物質の人体に対する作用を薬理的な観点から理解するための基礎知識を習得する。その基礎知識を踏まえて、食品と医薬品の違い、相互作用、安全性・有効性の評価に関する事項を理解し、氾濫する食品情報に適切に対応でき、さらに傷病者の栄養管理にも対応できる知識を習得する。

### 学習目標

テキストに対応したプリントを随時配布する。テキストを事前によく読み、講義中はプリントの内容を補いながら講義内容を理解してほしい。学習目標は以下の3点である。

- ・食品と医薬品の相違について正しく理解する。
- ・いわゆる健康食品の安全性・有効性を踏まえた適正な利用方法を理解する。
- ・各種疾患で使用される治療薬について、その作用に関する基礎的な知識と、食品成分との相互作用について理解する。

## 内容

1	総論 食品と医薬品の特性と区分
2	総論 薬理学の基礎的知識
3	総論 食品成分および医薬品の体内動態（吸収・分布）
4	総論 食品成分および医薬品の体内動態（代謝・排泄）
5	総論 食品成分および医薬品の体内動態に影響を与える因子
6	総論 食品-医薬品相互作用の事例
7	総論 医薬品およびいわゆる健康食品による健康被害
8	総論 食品と医薬品の安全性・有効性評価
9	総論 いわゆる健康食品をとりまく現状と保健機能食品制度
10	各論 治療薬の作用機序と、薬の体内動態に影響する因子（代謝・内分泌疾患作用薬）
11	各論 同上（末梢神経および中枢神経作用薬）
12	各論 同上（循環器系作用薬）
13	各論 同上（呼吸器系作用薬および消化器系作用薬）
14	各論 同上（免疫・アレルギー系作用薬および抗感染症薬）
15	まとめ

## 評価

レポート（30%）、ペーパーテスト（70%）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合

は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】川添禎浩・古賀信幸編 栄養科学シリーズNEXT『栄養薬学・薬理学入門』講談社サイエンティフィック

【推薦書】安原一・小口勝司編 『わかりやすい薬理学』 ヌ - ヴェルヒロカワ

渡辺他編著 『クスリのことわかる本』 地人書館 499.1/K

独立行政法人国立健康・栄養研究所監修 『健康・栄養食品アドバイザーースタッフ・テキストブック』 第一出版

田中正敏著 『薬はなぜ効くか』 講談社 491.5/T

科目名	児童生徒の精神保健		
担当教員名	田中 麻未		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

養護教諭一種免許状取得のための科目である。「精神保健」の科目区分にあり、「精神保健概論」との関連が強い。

#### 科目の概要

児童生徒を対象とした精神保健を考える際に、発達上の変化を加味した理解が必要である。成人以上に診断や評価が難しいが、早期のサインを見逃さずに適切に対処することで、重症化することなく、また二次障害を生じることなく、本人の潜在的な可能性を十分に伸ばすことが可能である。養護教諭としての関わりといった視点から事例を交えて学ぶ。

#### 学修目標

- ・ 児童期・青年期に生じる代表的な発達障害・精神障害について学ぶ。
- ・ 養護教諭としての関わり方を理解する。

## 内容

1	児童生徒の精神保健の現在
2	注意欠陥多動性障害とは
3	注意欠陥多動性障害への対応
4	学習障害とは
5	学習障害への対応
6	アスペルガー障害とは
7	アスペルガー障害への対応
8	中間試験
9	摂食障害とは
10	摂食障害への対応
11	児童虐待とは
12	児童虐待への対応
13	薬物依存とその対応
14	まとめ
15	今後の課題

## 評価

中間試験（50点）と期末試験（50点）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に定めない。推薦書は適宜授業中に紹介する。

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生徒指導については、高校時代まで指導を受けるという経験を通じて、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性、指導の組織と計画、生徒理解の方法、指導方法、進路指導等について、きちんと理解してほしい。

#### 内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法（観察法）
8. 児童・生徒理解の方法（面接法）
9. 児童・生徒理解の方法（検査法）
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. まとめ

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて別途プリントや資料を配布し、講義形式で行う。そして、質問を発して、拳手の形で答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて何回か質問を発し、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

#### 評価

平常点(15点) レポート(15点) 筆記試験(70点) 60点以上を合格とする

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法（三訂版）』 学芸図書

【参考図書】江川? 成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂



推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	<b>教育相談</b>		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【科目の性格】

教職に関する科目の中の「生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応する。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大芦 治「教育相談・学校精神保健の基礎知識 第2版」ナカニシヤ出版 2008

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

有村久春著「キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談」金子書房 2009

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	総合演習		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

人類共通の課題として国際理解、環境問題、福祉・健康・家族関係等があげられる。これらの中から養護教諭として担保しておかなければならない近年の課題について、これまでの履修科目では触れられなかった事項について、複数の教員の専門分野から指導を受け、児童生徒の健康の保持増進と健全育成を目指すものである。

学修目標は、随時配布する資料によりその内容を理解するとともに、これまで習得した知識との関連を持たせながら、授業内容の振り返り、ノートの整理をすることで、より理解を深め、養護教諭としての資質能力を高める。

内容

1	教育関係法令と教育行政
2	子どもの発育・発達の理解
3	子どもの生活行動について
4	子どもの抱える心の問題
5	学校環境衛生
6	不登校・保健室登校
7	不登校・保健室登校における養護教諭の役割
8	児童虐待
9	児童虐待における養護教諭の役割
10	地域社会における関係機関について
11	子どもを取り巻く環境について
12	保健指導の機会とそのとらえ方
13	喫煙・飲酒防止教育について
14	薬物乱用教育について
15	まとめ

評価

レポート、資料作成を5割、授業に対する意欲・関心・態度を5割とし60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて、授業時に指示する。

科目名	<b>養護実習</b>		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。連携の方法や必要性を再確認させる。

#### 内容

##### 1．事前指導

###### (1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

###### (2) 実習中における課題の設定について

###### (3) 実習校訪問について

###### (4) ロールプレイングによる模擬演習

##### 2．事後指導

###### (1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

###### (2) 実習校訪問

###### (3) 実習記録簿の提出

#### 評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：「学校保健実務必携」（学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規）

科目名	<b>養護実習</b>		
担当教員名	齋藤 千景、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。 児童生徒への指導の体験。 事後措置の方法の体験。 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

#### 内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

#### 評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	教育実践論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は養護教諭一種免許状取得のための選択科目です。養護または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

- 。(i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します
- 。(ii)配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

#### 内容

##### 1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

##### 2.介護等体験

##### 3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

#### 評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 授業への参加度 50%
- (3) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育方法		
担当教員名	高橋 京子、齋藤 千景、佐見 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

教職課程の選択科目として開講する。

#### 科目の概要

学習指導要領における保健科教育全体の教育課程を学ぶ。保健科教育の目標や内容を押さえ、教育実践に展開するための理論と実際を学ぶ。

#### 学修目標

- ・学習指導要領に基づいて、学校教育における保健教育の役割を理解する。
- ・保健の授業を組み立て、保健学習を行うために必要となる基礎的考え方を習得する。
- ・授業の分析方法や評価の仕方について理解する。

#### 内容

第1回：オリエンテーション、学校教育における保健科教育の意義と目標

第2回：小学校・中学校・高等学校学習指導要領の概要

第3回：保健科教育の役割と教育課程の歴史

第4回：子どもの健康実態と保健教育

第5回：学習指導要領の内容(心身の機能の発達と心の健康)

第6回：学習指導要領の内容(健康と環境)

第7回：学習指導要領の内容(傷害の防止)

第8回：学習指導要領の内容(健康な生活と疾病の予防)

第9回：保健科学習指導案の書き方

第10回：保健科指導における評価と留意点

第11回：模擬授業の実施(1)及びその評価・検討 小学校中学年

第12回：模擬授業の実施(2)及びその評価・検討 小学校高学年

第13回：模擬授業の実施(3)及びその評価・検討 中学校

第14回：模擬授業の実施(4)及びその評価・検討 中学校

第15回：振り返りとまとめ

#### 評価

模擬授業の指導案(40点)、最終試験(60点)を総合して単位を認定する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎時間資料を配布する。

【参考書】小学校学習指導要領解説 体育、中学校学習指導要領解説 保健体育、高等学校学習指導要領解説 保健体育編  
・体育編 他、講義において随時紹介する。



科目名	教職演習		
担当教員名	天井 勝海		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職に求められる実践的な資質や能力等を育成する。特に教職演習 との関連性があり、教職演習 の学修内容を発展させた内容を取り扱う。

我が国の学校教育においては、国際化・情報化・高齢化・少子化などの著しい進展に伴い、児童生徒を取り巻く環境が急変する中で、教育上の様々な課題が生じている。このことを踏まえ、具体的な課題を取り上げ、課題解決に向けた実践的な指導力やそのために必要な資質や能力を育てる。

教職に求められる実践的な指導能力を高めることを重視するので、単なる知識理解にとどまることなく、常に生徒や保護者あるいは地域の方々とのかかわりを意識して学修を進めることが重要です。

#### 内容

- 1 学校教育の現状と課題
- 2 学校改革の推進と特色ある教育課程の編成実施
- 3 個に応じた授業の推進と授業力
- 4 授業の改善と授業評価
- 5 生徒の問題行動と生徒指導の在り方
- 6 いじめ問題への対応
- 7 いじめ問題が生まれない学級づくり・学校づくり
- 8 不登校問題への対応
- 9 不登校問題が生まれない学級づくり・学校づくり
- 10 キャリア教育と進路指導
- 11 体験学習の推進と心の教育
- 12 地域に開かれた学校教育
- 13 人権教育の推進
- 14 これからの学校経営の在り方
- 15 教育公務員としての自覚と責任

#### 評価

・テスト60点・発表20点・課題提出20点として総合評価する。60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 現代実践教職入門(学事出版)・毎時間配布される資料

推薦書 授業の際に内容に応じて紹介します。

科目名	教職演習		
担当教員名	松野 智子、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「養護概説」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指すものである。

学修目標は、 これまでに学んだ知識と技術の確認、 いかなる条件下においてもこれまで習得した教職関係及び心理学関係の知識を活用し、養護教諭としての的確な判断のによる対応能力の育成。

#### 内容

1	学校教育と学校保健
2	学校教育と関連法規等について
3	学校組織の理解
4	学校保健と関連法規等について
5	学校保健の領域構造の理解
6	学校保健関係者とその連携について
7	養護教諭の専門領域における職務内容について
8	校務分掌に関すること
9	学校歯科保健への取組方法
10	危険等発生時対処要領の内容としての心のケアについて
11	危機管理の一環としての救急体制について
12	事件・事故災害等における養護教諭の役割について
13	学校保健にかかわる諸帳簿の整理と管理について
14	子どもの心身の健康に関する諸統計の理解と活用方法について
15	まとめ

#### 評価

レポート等提出7割、通常の授業態度3割 60点以上合格とする。

合格点に満たない場合は「再試験」を実施する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	名倉 秀子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、小・中学校において栄養教諭に求められる基礎的な内容を学ぶ。

児童・生徒の食生活の乱れが近年深刻化されている。学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が望ましい食習慣を身につけることが栄養教諭の使命といえる。

学修目標は、栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項や幼児、児童・生徒の栄養に係る課題に関する事項について理解できる。

#### 内容

1	栄養教諭とは
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の食事に関する実態把握及び分析等の必要事項
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命、役割
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会事情
10	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る法令ならびに諸制度
11	国民の栄養をめぐる諸事情
12	児童・生徒の栄養に係る諸課題
13	食生活に関する歴史
14	食事及び食物の文化的事柄
15	まとめ

#### 評価

レポート30点及びペーパーテスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領 文部科学省  
 中学校学習指導要領 文部科学省  
 授業中に指示します

【推薦書】川戸喜美枝編著 『栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 』（株）ぎょうせい

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	名倉 秀子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要な科目で、栄養教諭実践論 の基礎から応用へ展開し、具体的な指導の方法等を学ぶ。

栄養教諭の職務内容は「学校給食管理」と「食に関する指導」であり、後者についてその実際を学び、さらに指導案と教材・資料等を作成する。

学修目標は、食に関する指導の方法を理解し、指導案、教材・資料を作成することができる。

#### 内容

1	「食に関する指導」の位置づけを理解する
2	学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成
3	給食に時間における食に関する指導
4	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
5	体育科、保健体育科における食に関する指導
6	道徳、特別活動における食に関する指導
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
8	食物アレルギー、肥満傾向などの個別指導のあり方
9	演習1 食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	演習2 食に関する指導の指導案作り
11	演習3 作成した指導案の発表，相互批評など
12	演習4 模擬授業、指導効果の評価
13	学校、家庭が連携した食に関する指導
14	学校、地域（保健所、保健センター、食生活改善推進委員会）が連携した食に関する指導
15	まとめ

#### 評価

レポートや課題発表等50点及びペーパーテスト50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領 文部科学省  
 中学校学習指導要領 文部科学省  
 授業中に指示します

【推薦書】川戸喜美枝編著 『栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 』（株）ぎょうせい

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教育実習に係わる事前・事後の指導を中心に行なう科目である。

学校における実習が始まる前に、栄養教諭の職務内容について、知識・技術を再確認する。実習後は、自らの実習体験をもとに栄養教諭の役割について理解を深める。

学修目標は教育実習中に必要とされる指導案の作成、資料・教材の作成を計画的に取り組むことができる。また、教育実習後では、学んだ実習について発表、協議し、よりよい「食に関する指導」の提案、計画ができる。

#### 内容

[栄養教諭実習前] 実習準備に結び付く内容を検討・確認する。

栄養教諭実習の意識や目的、心構え、実習の評価の方法、実習ノートや指導案の書き方、実習中の大学との連絡方法などを検討し、確認する。

[栄養教諭実習後] 実習体験の報告をもとに、問題点の整理、今後の課題を明確化し、栄養教諭の職務活動の展開を考える。

#### 評価

事前・事後指導におけるレポート、指導案の取り組みにより評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習ノート・プリント配布

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教諭実習 で学んだ内容を教育現場で実際に体験し、教諭としての知識、技術を確実に身につける。

栄養に関する科目、栄養教諭実習 で習得したことをふまえて、栄養教諭実習 では、実際に学校での職務について参観し、実習を実施する。

大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践し検証することができる。

#### 内容

1. 指導教諭等から学校経営、校務分掌、服務等の説明をうける。
2. 児童・生徒への個別的な相談、指導の実習 指導・相談の場の参観ならびに補助をおこなう。
3. 児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実習 学級活動及び給食の時間における指導の参観ならびに補助。教科等における教科担任等と連携した指導の参観ならびに補助。給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観ならびに補助。児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観ならびに補助。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等をおこなう。
4. 食に関する指導の連携・調整の実習 校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、構内研修等）の参観ならびに補助。家庭・地域との連携・調整の参観ならびに補助等をおこなう。

#### 評価

実習先の評価及び実習記録ノート・巡回担当者の評価をあわせ、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習ノート

科目名	福祉教科教育法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(福祉)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成をねらいとする。教育法 では福祉科のねらいと特質、単元構成、教材研究などを中心に基礎的な項目を取り上げて学習する。

具体的には次の事がらを学ぶ。 高等学校福祉科の基本的理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解 福祉観の捉え直し(意識化と相互理解・相互啓発) 学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解 上記を通しての教育観の捉え直し

学修目標は、上記内容の達成である。授業では、講義、演習、発表、体験的实践等の方法をを取り入れる。少人数ゆえにこそ、各学生の学びへの主体的・積極的な問題意識と参加が求められる。

#### 内容

15週の主たる授業内容は以下の通り。

1. 福祉教育の意義と福祉
2. 福祉科の目標
3. 福祉科の内容構成
4. 7科目の教材研究 「社会福祉基礎」
5. 7教科の教材研究 「社会福祉制度」
6. 7教科の教材研究 「社会福祉援助技術」
7. 7科目の教材研究 「基礎介護」
8. 7教科の教材研究 「社会福祉実習」
9. 7教科の教材研究 「社会福祉演習」
10. 7教科の教材研究 「福祉情報処理」
11. 教材研究のまとめ
12. 福祉科の指導上の留意点
13. 福祉科における実習・演習の意義と指導法
14. 福祉科における実習・演習の意義と指導法
15. 福祉教育とボランティア学習

#### 評価

レポート20%、発表60%、課題提出20%とし、総合的に評価する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】・文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房  
 ・保住芳美編著『新学習指導要領の展開(福祉科編)』明治図書出版

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。



科目名	福祉教科教育法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(福祉)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「福祉教科教育法」に引き続き、高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の修得及び力量形成をねらいとする。福祉教科教育法の履修済が前提となる。福祉教科教育法では、学習指導、授業研究、実習の指導などを体験的・実践的に学ぶことにする。

授業では、引き続き、講義、演習、発表、体験的实践等の方法を取り入れる。具体的には次の事がらである。高等学校福祉科の基本的理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解 福祉観の捉え直し(意識化と相互理解・相互啓発) 学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解 上記を通しての教育観の捉え直し

学修目標は、上記内容の到達とする。少人数ゆえにこそ、各学生の学びへの主体的・積極的な問題意識と参加が求められる。

#### 内容

1. 授業のねらいと概要(学習指導案作成及び各科目指導法について)
2. 福祉科の指導法の概要
3. 「社会福祉基礎」の目標とその指導法
4. 「介護福祉基礎」の目標とその指導法
5. 「コミュニケーション技術」の目標とその指導法
6. 「生活支援技術」の目標とその指導法
7. 「介護過程」の目標とその指導法
8. 「介護総合演習」の目標とその指導法
9. 「介護実習」の目標とその指導法
10. 「こころとからだの理解」の目標とその指導法
11. 「福祉情報活用」の目標とその指導法
12. 福祉科学習指導案の作成と改善の検討
13. 模擬授業1(授業評価及び指導案の検討を含む)
14. 模擬授業2(授業評価及び指導案の検討を含む)
15. 模擬授業3(授業評価及び指導案の検討を含む)

#### 評価

次の観点から、ミニレポートと最終的に提出する学習指導案を含むレポートにより評価する。

- ・福祉科各科目の目標とその指導法を理解できたか。
- ・福祉科学習指導案を作成する力を身につけたか。
- ・模擬授業演習を通じて、学習指導案を検討し、授業を改善することができたか。

ミニレポート(出席状況を含む)20点、模擬授業実践60点、最終レポート20点により評価する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『文部科学省検定済教科書 社会福祉基礎』実教出版

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(福祉)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教職をめざす者としての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

授業では、教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたっての具体的な事前・中間・事後の指導を行う。

学修目標は、上記内容の達成である。教育実習に直接関わる科目であり、情熱と問題意識をもって積極的に取り組んでいくことが肝要である。

#### 内容

15週の主たる内容は、次の通り。

##### 1. 事前指導

- ・教育実習オリエンテーション(1週)
- ・実習時おける勤務・サービスの心得(2週)
- ・実習記録の作成法(3週・4週)
- ・配当科目についての最終的な指導案の作成(5週)
- ・事前模擬授業実践(6週・7週・8週)
- ・実習校事前訪問指導(9週)

##### 2. 中間指導

- ・前期実習を振り返っての反省会(10週)
- ・実習日誌の中間提出(確認)(11週)
- ・後期実習に向けての指導(12週)

##### 3. 事後指導

- ・実習校事後訪問指導(13週)
- ・教育実習報告書の作成指導(14週)
- ・教育自習報告会の実施(15週)

#### 評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教職をめざす者としての心構えの理解や授業運営能力などを総合的に行う。事前模擬授業実施20%、教育実習日誌内容60%、教育実習報告書作成及び報告会参加20%により評価する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教育実習高校で各自使用した教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業時に適宜指示する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育実習 は、教職科目、教科関連科目、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、実際に学校 現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力量を身につけることをねらいとする。

趣旨（概要）としては、これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知することにある。

学修目標は、上記の内容・課題への到達である。なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に対応する。

#### 内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%とし、評価を行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、適宜指示する。

科目名	<b>教育実習</b>		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-教職課程・司書教諭課程科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(福祉)		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

教育実習 は、実際に学校現場で授業を担当する。これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、教職をめざす者としての総合的力量を身につけることをねらいとする。

趣旨(概要)は、教職科目、教科関連科目、教育実習 で学修してきた内容を踏まえて、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知することにある。

学修目標は、上記の内容。課題への到達にある。なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」で必修とされる2単位分に対応する。

#### 内容

実習校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

#### 評価

実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%とし、評価する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、適宜指示する。